

# 令和7年度 県民総合スポーツ大会兼埼玉県高校サッカー新人大会 総評

## 「武南高校優勝」

報告者：高体連技術委員 不動岡高校 大城 周

### 1 大会概要

令和7年度県民総合スポーツ大会兼埼玉県高校サッカー新人大会は、2月7日、11日、14日、15日の4日間で埼玉スタジアム第2グラウンドなどの会場で行われた。今大会は、昨年的高校サッカー選手権大会ベスト8のチームと1、2月に行われた新人大会各支部予選から勝ち上がった8チーム(各支部2チーム)の合計16チームによるトーナメント方式で実施された。

### 2 大会結果

優勝 武南高校 (2大会ぶり12回目)

準優勝 聖望学園高校

第3位 昌平高校・西武台高校

### 3 大会全般(傾向と特徴)

各チームが新チームとなり初めての大会となったが、連携面や強度の面で新チームのスタートという時期を感じさせない完成度であった。各チームが大会までの短い期間でしっかりとチームの強化を図ってきたことが感じられた。特に上位のチームは攻守にわたって強度の高さを維持しながら、トランジションの場面での速さも際立っていた。攻撃面では、個人の技術で突破を試みるだけでなく、近い距離感でのワンタッチプレーを駆使してゴール前に侵入する場面が多く見られた。

セットプレーでは、デザインした形は多く見られたが準決勝以降はゴールに繋がるプレーはなく、各チームの守備力の高さを感じると共に連携面での改善が必要であると感じた。

### 4 決勝進出高校分析

#### 1) 武南高校

基本システムは1-4-2-3-1の布陣。攻撃時でも選手間の距離感が近く、素早くセカンドボールを回収することで二次攻撃に繋げていた。MF⑧小山が適格な状況判断で様々な場所に顔を出し、サイドや背後に長短のボールを供給することでリズムを作る。右SH⑨鞭馬にボールが渡るとスピードとテクニックで前進し、ペナルティーエリア付近では2人目、3人目が関わりゴール前に侵入する。守備では、GK①金を

中心に隙の無い守備を全試合通して行い、大会を無失点で終えた。

全国高校サッカー選手権大会埼玉県予選準優勝を経験したメンバーも多く、高い技術力や経験に加えて、トランジションやプレスバックでのスピードやスプリント回数  
の多さも目立った。攻守共に隙無く高いクオリティを見せつけ、21得点無失点で今  
大会を優勝で終えた。

## 2) 聖望学園高校

基本システムは1-4-3-3の布陣。守備時は相手の立ち位置やビルドアップの  
仕方に合わせて効果的にポジションを変化させる。コンパクトな陣形を維持しながら  
中央を締めサイドへ誘導し奪い切る意図が見られた。MF⑥永井が危険なエリアや空い  
ているスペースを察知し埋める役割を担い守備のバランスを取っていた。GK①竹川の  
コーチングやセービング力も、大会を通して2失点に抑えた粘り強いディフェンス力  
に大きく貢献していた。攻撃面では、ロングボールをFW⑨前住が収めて時間を作っ  
たりワンタッチでサイドに展開したりすることで全体が素早く前進する。FW⑨の動き  
によって生まれるライン間のスペースにMF⑧川野が受ける場面も多く見られた。特  
にカウンター時の2人目、3人目の関わるスピードが速く、クロスの高かった。

強固な守備と素早いカウンターを武器に決勝まで勝ち進み、初の関東高校サッカー  
記念大会出場を決めた。

## 5 最後に

今大会では、新チームになって各選手が高いモチベーションで最後まで勝利への執  
念を持ち続けた姿が印象的であった。 新人大会における各チームの成果と課題を整理  
し個とチーム両方のさらなるレベルアップを図ることを望むとともに、次年度の全国  
高校総体や全国高校サッカー選手権大会において埼玉県のチームが全国の頂点に立つ  
ことを期待したい。